

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援ベガサス・児童支援ベガサス個別療育プログラム教室		
○保護者評価実施期間	2024年12月16日		～ 2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2024年12月16日		～ 2024年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動スペースが十分に確保されているとともに職員の配置数が多く適切である。また施設内では心地よく過ごせる環境として整っていること。	広い施設内を子どもたちが安全安心して利用できるかを、常日頃から職員一同考え、会議を開いている。	事業所が2階にあるというハンディをどのように工夫し、環境を整えるかを今後の課題として取り組む。
2	保護者様や通所しているお子様からの満足度が高い。	関係機関や保護者様と定期的な連絡をとりコミュニケーションをとる等、信頼関係を築く努力を職員一丸となって実施している。	保育所や認定こども園、幼稚園との交流、その他地域でほかの子どもたちと活動する機会を作るよう取り組む。
3	支援計画がガイドラインに沿ったねらいも踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、そのうえで具体的な支援内容となっている。また、計画後のモニタリング、支援計画の更新時等、保護者様との面談や必要な助言、支援を行っている。	事業所を利用する際に、重要事項説明、情報保護規定、利用に関する支援プログラムをご納得いただくまで丁寧に説明することを心がけている。また、子どもやご家族からの相談や申し入れがあった際、迅速かつ適切に対応できる体制づくりを整えている。	コロナ以前に実施していた保護者様同士の交流会や茶話会を再開する等、保護者様の不安や質問に対して真摯に向き合う取り組みを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園との交流、その他地域でほかの子どもたちと活動する機会がない。	他施設や地域の行事に関する情報収集が不十分である。他施設との活動を実施するための計画や時間的余裕が不足している。	地域の子ども会や地域イベントへの参加を通じて、子どもたち同士の関わりを促進する。 他施設と共同で企画・運営できるプログラムを検討し、年間計画に組み込む。 地域の子育て支援センターや行政担当者と定期的に情報共有を行う。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っていない。	地域住民と交流する場を設定する意識が事業所全体に浸透していない。 地域住民を招く行事を実施する際の人員や時間的余裕が不足している。	地域の掲示板や広報誌、SNSなどを活用し、事業所の活動内容を広く発信する。 地域住民やボランティア団体と連携し、交流イベントを共同で企画する。
3	第三者による外部評価を実施していない。	外部評価の重要性の認識が不足している。 外部評価を実施するための予算や実施手法に関する知識が不十分である。 外部評価の結果を活用する具体的なイメージが事業所内で共有されていない。	外部評価の目的やメリットについて職員間で理解を深める研修を実施する。 外部評価を専門に行う機関や専門家を調査し、連携を図る。 評価結果を具体的な改善計画に反映する仕組みを作り、職員全体で共有する。